

患者さんと病院を「つなぐ」情報誌

つなぐ

TSUNAGU

O t s u C i t y H o s p i t a l



おかげさまで
市立大津市民病院は
令和元年に開設120周年を
迎えました。

2020年
vol.7

ご自由にお持ちください



「市立大津市民病院応援プロジェクト」の皆様が
描かれた絵手紙の寄せ書きを手にする看護師
(P.1,2 温かいご支援の輪に感謝)

Contents

温かいご支援の輪に感謝 1~2

Topics : 第2波、第3波に備えて 3

Pick Up : 紫外線照射ロボット「ライトストライク」..... 4

白衣のおっさんがマンガで登場! 5

栄養部 暑い夏を乗り切ろう! 6

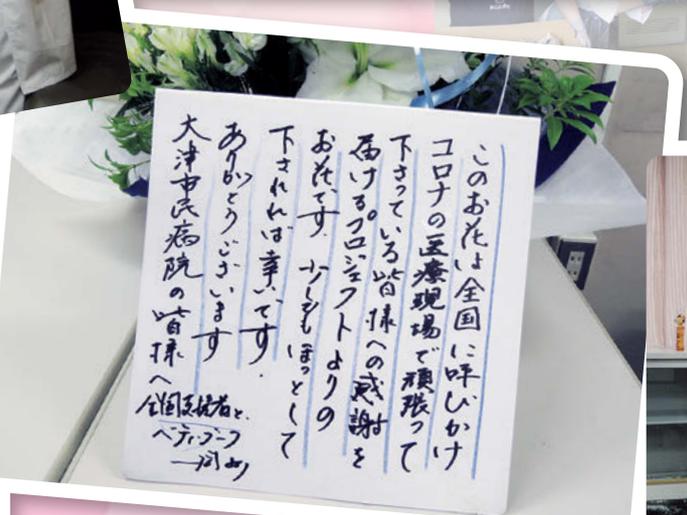
温かいご支援の

ご支援ありがとうございます

新型コロナウイルス感染症拡大の中、
多くみなさまから医療物資など
ご寄贈や寄付金、差し入れなど
たくさんのご支援をいただいております。

みなさまからの心のもったご支援が
当院のスタッフにとって何よりも
励みになっています。

誠にありがとうございます。



輪に感謝

ございます



市立大津市民病院
院長 若林 直樹

まだまだ先の見えない新型コロナウイルス感染症です。この診療の最前線にいます当院に、皆さまからの温かい励ましのメッセージ、マスクなどの防護具をはじめとする多数のご寄付を戴きましたことを改めてここに感謝申し上げます。

当院は、感染症指定医療機関としての責務を果たすべく、また皆さまの命を守るため、未だ治療法の確立していないこの感染症に対して、職員一同団結し、懸命に向き合っております。しかしながら、通常診療とは全く異なるため、最前線で働く医療スタッフは、身体的にも精神的にも強いストレス状況にあります。

このような状況をご理解いただき、皆さまから“ありがとう”“頑張って”“応援しているよ”という気持ちのこもったご支援をいただきましたことは、本当に心強く、医療スタッフのモチベーション維持に計り知れない力を与えていただきました。本当にありがとうございました。

皆さまも同じ気持ちと思いますが、一刻も早いこの感染症の収束を心より祈っています。

紙面の都合でご紹介できなかったご寄付は、当院ホームページ「新型コロナウイルス感染症対応への医療支援の輪」で、ご紹介させていただいております。



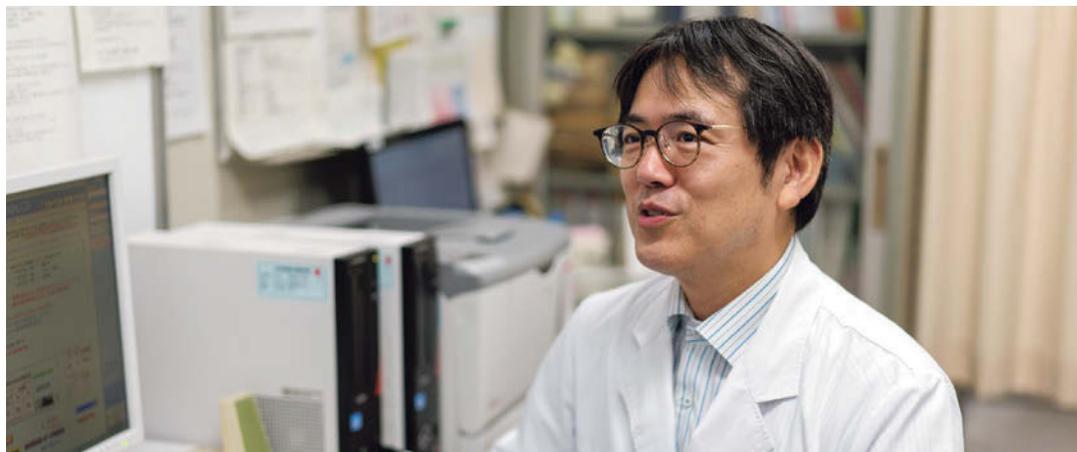


「第2波、第3波に備えて」

感染症科 診療部長 大江 秀典



新型コロナウイルス感染拡大の
第2波、第3波に備えて注意すべきことは何ですか？



3月から4月にかけての新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を当院もなんとか乗り越えることができました。欧州との人の交流がおそらくその主因だったのではないかと推察されます。

緊急事態宣言は5月25日に解除され、少しずつではありますが、経済活動が戻りつつあるようです。そこで、第2波はどうなるのだろうかという懸念が起きることは当然のことかもしれません、しかし今も世界では患者数が1日あたり万単位で増え続けていることを考えると、まだまだ第1波のただ中にいるというべきかもしれません。「いつまで我慢しなくてはいけないのか」、「いつになったら以前の状態にもどるのだろうか」と先行きが見えないなかで暗澹たる気持ちに陥り、心が折れそうになるかもしれません。

そういった厳しい状況にありますが、ワクチンや治療薬は研究されていますし、悲観する必要はありません、宇宙飛行士の野口聡一氏がこう言っていました「長い宇宙ステーションの生活のなかで大切なことは、毎日のルーティーンを淡々とこなすこと、今できないことは考えないこと、そして目の前にある仕事に集中すること」。その通りだと思います。今、出来ることは何かを冷静に考えて、淡々と仕事を続けていきましょう。

感染対策の注意点を話をもどしますが、COVID-19の感染様式として、飛沫感染、接触感染に加えて会話・発声にともない排出される小さな飛沫が重要であることが明らかとなっています。つまり、大きな声・密接した状況での会話や荒い息遣いが生じる状況に注意が必要です。ライブハウス、クラブ、スポーツジム、カラオケ、立食パーティーなどでの感染例が報告されています。そういった環境には特にリスクのある高齢者は近づかないようにしたほうがよさそうです。また、マスク着用については飛沫を軽減する効果があるので、皆が装着することで感染拡大を予防することができると考えられます。来たるべき冬にはインフルエンザも例年の如く感染拡大すると考えられ、ワクチンを接種しておくことが重要です。

情報という点では、様々な媒体で、様々な人が、様々な意見を発信しており、正直私にもなにを信用していいのかわかりませんが、冷静さを保つために、厚労省、保健所、日本感染症学会などのホームページでより確からしい情報に触れておくことを心がけています。この病院広報誌が刊行される8月から9月にかけて状況が安定していることを願っています。

（文責：感染症科 診療部長 大江秀典）



紫外線照射ロボット「ライトストライク」を導入しました

当院では、このたび紫外線照射ロボット「ライトストライク」を導入しました。

紫外線照射ロボット「ライトストライク」は、キセノン紫外線を照射することで、手術室やベッド、壁、ドアノブなどに付着する細菌やウイルスの死滅により院内感染予防が期待できます。

また、紫外線照射ロボット「ライトストライク」は、手作業清掃より短時間で効果的に

ウイルスを除去できるため、病床稼働率を低下させることなく、院内感染リスクを下げることができます。

さらに、水銀を使用していないため、環境への負荷も抑えることができます。

当院内では、これまで院内感染予防のために清掃・消毒作業を徹底してまいりましたが、限界のある手作業に加えて紫外線照射ロボット「ライトストライク」を導入するこ



パルス式キセノン
紫外線(UV)照射ロボット

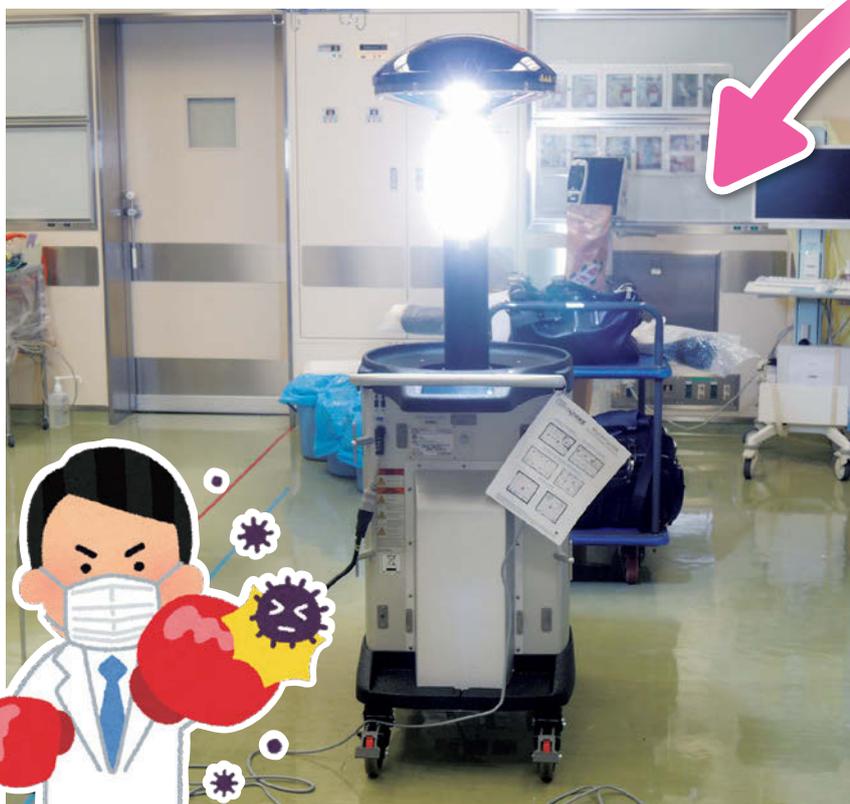
とで感染予防の更なる強化が期待できます。

水銀不使用のパルスドキセノンUVは、利用可能な対象が非常に広く、当院でも手術室をはじめER・ICU各病棟などあらゆる場面で運用しています。

なお、滋賀県内での紫外線照射ロボット導入は、当院で2例目になります。

《参考》

テルモ株式会社ホームページ
医療関係者向け情報トップ
医療機器製品情報〉ライトストライク
<https://www.terumo.co.jp/medical/equipment/me392.html>



ライトストライク 照射の様子

白衣のおっさんが マンガで登場!

熱中症には注意して



キャラクターの紹介



白衣のおっさん

いつもはのんびり野洲のおっさんが白衣をはおると、きりりと「白衣のおっさん」に早変わり。今日も患者さんの健康を守るため、趣味(?)の院内回診に余念がありません。



看護師の恋ツブリ

気立がよくて、働き者。患者さんの人気ナンバーワン看護師です。恋ツブリの優しいかけ声で注射されると、なぜか全く痛くないと院内ではもっぱらのウワサです。



患者さんのvivaビ7ばあさん

医師や看護師さんにするどいツッコミをいれる院内のご意見番。その一方で、元気をなくしている患者さんをフォローして勇気づけるなど、人情たっぷりのおばあさんカイツブリ。

白衣のおっさんが
アニメでも登場するよ!
びわ湖放送「知ったかぶりカイツブリにゅーす」
(18:00~18:15)

暑い夏を乗り切ろう!



新型コロナウイルス感染予防×熱中症対策

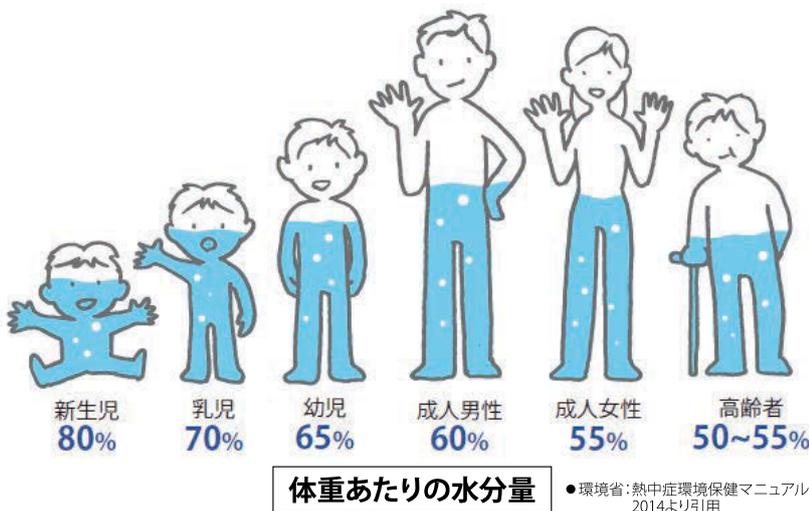
～新しい生活様式※に合わせて～

※新しい生活様式とは、新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である。①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いの実施や「3密(密集、密接、密閉)」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと(厚生労働省)

蒸し暑い日本の夏は、過度の発汗による熱中症の危険と隣り合わせ。

今年は新型コロナウイルスが猛威をふるい、私たちの日常を大きく変えてしまいました。今回は新しい生活様式に合わせた熱中症対策のうち、水分補給についてご紹介します。

わたしたちの体のおよそ半分は、水分で成り立っています



●環境省：熱中症環境保健マニュアル 2014より引用

体内の水分量は、1日の水分の摂取と排泄により一定に調節されています。発汗などにより、体重の1%の水分を失うと喉の渇きを感じます。また、体重の3%の水分を失うと運動能力や体温調節機能が低下してしまいます。

ご高齢の方が普段より多く汗をかいた時やより代謝が活発な乳児や幼児は、熱中症になりやすいため、特に注意が必要です。

マスクをしていると喉の渇きを感じにくくなります

夏場のマスク着用時は喉が渇いていなくてもこまめな水分補給が大切です。大量に汗をかいた時は塩分補給も忘れずに。

ただし、水分や塩分に制限がある方やうまく飲み込みができない方は、主治医に相談しましょう。



1時間ごとに コップ1杯 入浴前後や起床後も まず水分補給を

・1日あたり **食事からの水分以外に**

1.2L (1.2リットル) を目安に



ペットボトル 500mL 2.5本 または コップ約6杯

人との距離を保ってマスクを外し
水分補給をしましょう!



●環境省・厚生労働省：令和2年度の熱中症予防行動の留意点についてより改変引用

地方独立行政法人市立大津市民病院

ご寄附のお願い



みなさまのご寄附を 医療機器の整備、療養環境の改善に 活かします！

地方独立行政法人市立大津市民病院では、個人さまや法人・団体さまなどからのご寄附を受け付け、病院の運営に活用させていただきます。みなさまのご協力を宜しくお願いいたします。

寄附募集概要

- **寄附金の使途**…医療機器の整備、施設や療養環境の改善
- **申込方法**……………当法人ホームページ「ご寄附のお願い」バナーより「寄附申込書」をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、法人事務局経営管理課にお申し込みください。（郵送・メール・持参いずれでも可）
※詳しくは、当法人ホームページ「ご寄附のお願い」バナーをご覧ください。
- **優遇措置**……………当法人は、「特定公益増進法人」に該当します。
当法人への寄附金は、税制上の優遇措置が受けられます。



お問い合わせ先

地方独立行政法人市立大津市民病院 法人事務局 経営管理課
TEL：077-522-4607(代) / メール：och1010@och.or.jp



地方独立行政法人

市立大津市民病院

〒520-0804 大津市本宮二丁目9番9号
TEL.077-522-4607 FAX.077-521-5414
<https://och.or.jp/>

